

松江市小中一貫教育だより NO.10

小中一貫教育推進係 文責：安部

保幼小の円滑な接続に向けて

昨今、保幼小の円滑な接続の重要性(国は「幼保小」の順で明示)が叫ばれているのはご存じでしょうか。そして、昨年度、国より「幼保小の架け橋プログラム」が示されました。この具体的な取組等の指示はこれからですが、ねらいは以下のようなものです。

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- 3要領・指針・特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- 架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及

など

松江市の取組

そのような中、松江市ではこれまで小中一貫教育(学園教育)の充実により、幼児期と学童期の連携を推進し、

- 小1プロブレム(小学校の集団生活や学習などにうまく適応できていない問題)の解消
- 保育所・幼稚園からの円滑な接続
- 学習に向かうための基盤づくり

を進めてきています。また、平成25年には、保育所・幼稚園・小学校がそれぞれの独自性を保ちながらも、ある程度同じ視点をもって子どもを見つめながら保育・教育を行うことが必要であると考え、左記の「松江市保幼小接続カリキュラム」を作成、各園所・各校配付しています。そして、この「松江市保幼小接続カリキュラム」では、本市の実態

と「学び」の連続性から、接続期につけたい力を **かしこい体** **生活する力** **学ぶ力** としてカリキュラムをまとめています。(具体的なことにつきましては、今後、お読みいただけたらと思います。)

その他にも保幼小の円滑な接続に向けて、

- 子育て政策課の **5歳児手帳** の作成・配付
- 発達・教育相談支援センター(エスコ)の **年長児童の学びの場～小学校見学会～** の検討
- 小学校校長会の **入学後の保幼小連絡会の実施** **園所訪問の実施** **保幼で統一された連携シートの活用**

など、具体的な形を示し動いています。また、保幼小の先生が意見を交わす連絡協議会や研修会等も設けています。

松江市内には現在67の保育園、24の幼稚園があります。そして、小学校へは多園所から実態の違う子どもたち、置かれてきた環境の違う子どもたちが入学してきており、今後、その傾向はさらに拡大することが予想

されています。そのような中でも、園児が小学校でよりよい育ちを続けていける、小学校に馴染んで力を発揮していけるよう、支えていく大人(保育園、幼稚園、小学校)が互いの環境を見合い、子どもの理解に向けて考え、語り合い、そのための取組を相互に工夫していくことがさらに必要になると思います。

R4年度 第1回幼小連携推進連絡協議会 意見交換会メモより

6/8(水)開催の上記の会の中で、参加された幼小連携担当の校長先生方、幼稚園・こども園・保育園の園長先生方による意見交換会を行いました。テーマは、

1. コロナ禍の中、園所、学校経営の困難点
2. コロナ禍の中、子どもの発達で気になる点
3. コロナ禍の中、園所、学校経営で工夫している点

というもの。具体的には、下記のような意見が出されました。(一部抜粋)

2. 発達で気になる点

- ・人の愛情をしっかりと伝えられているのかどうか。先々の成長に影響があるのでは。
- ・保護者がマスクをしているため、子どもが保護者の言葉や表情を読み取りにくい。
- ・体力が落ちている気がする。
- ・マスクを外してもいい場面なのに外せない。
- ・マスク着用の影響は特に感じられない。
- ・楽しいはずの行事ができていない。(体験の減少)

1. 経営の困難点

- ・保護者を行事に案内できなかった。また、他の所園との横のつながりももてなかった。
- ・学級閉鎖あるいはその後の学級のメンバーがそろわないことによって学級を単位とした授業が困難。
- ・陽性者が多くなってくるにつれ、検査実施から結果判明まで日にちがかり、教育の機会がうばわれて気になった。

1. 経営の困難点

- ・長時間保育の施設であることや抵抗力の弱い子どもたちであることから人的な面がとてみたいへんだった。
- ・分けて保育をするため、多くの職員が必要となる。職員がたりなくなる。

2. 発達で気になる点

- ・人とかかわりが少なくなると、人とかかわりにくくなる。
- ・(友達の)思いを感じる力や(友達へ)思いをきちんと伝える力
- ・漠然とした不安感(安心感の弱まり)

3. 経営で工夫している点

- ・会合を減らして他の時間にあてる。保護者との会話をより増やす。保育指導員との情報共有に心がける。
- ・保護者への伝達の工夫(掲示、たよりだけでなく人により伝える意識を！)
- ・場の工夫をすることで運動会やふさと教育を実施している。
- ・行事、保育内容について発想の転換で楽しくなるように工夫する。
- ・ICTの活用(学校探検、オンライン授業)・個別の指導を充実させる。
- ・直接かかわるだけでなくふれあいを工夫する。(見る、知る、感じる、思いをはせる。)

